

山梨の魅力を世界へ！



「トピックス」活用進むやまなしの水素関連技術
連載 山梨懸人 一緒に食べて、地域とつながる

バージョンアップ！

巻頭特集

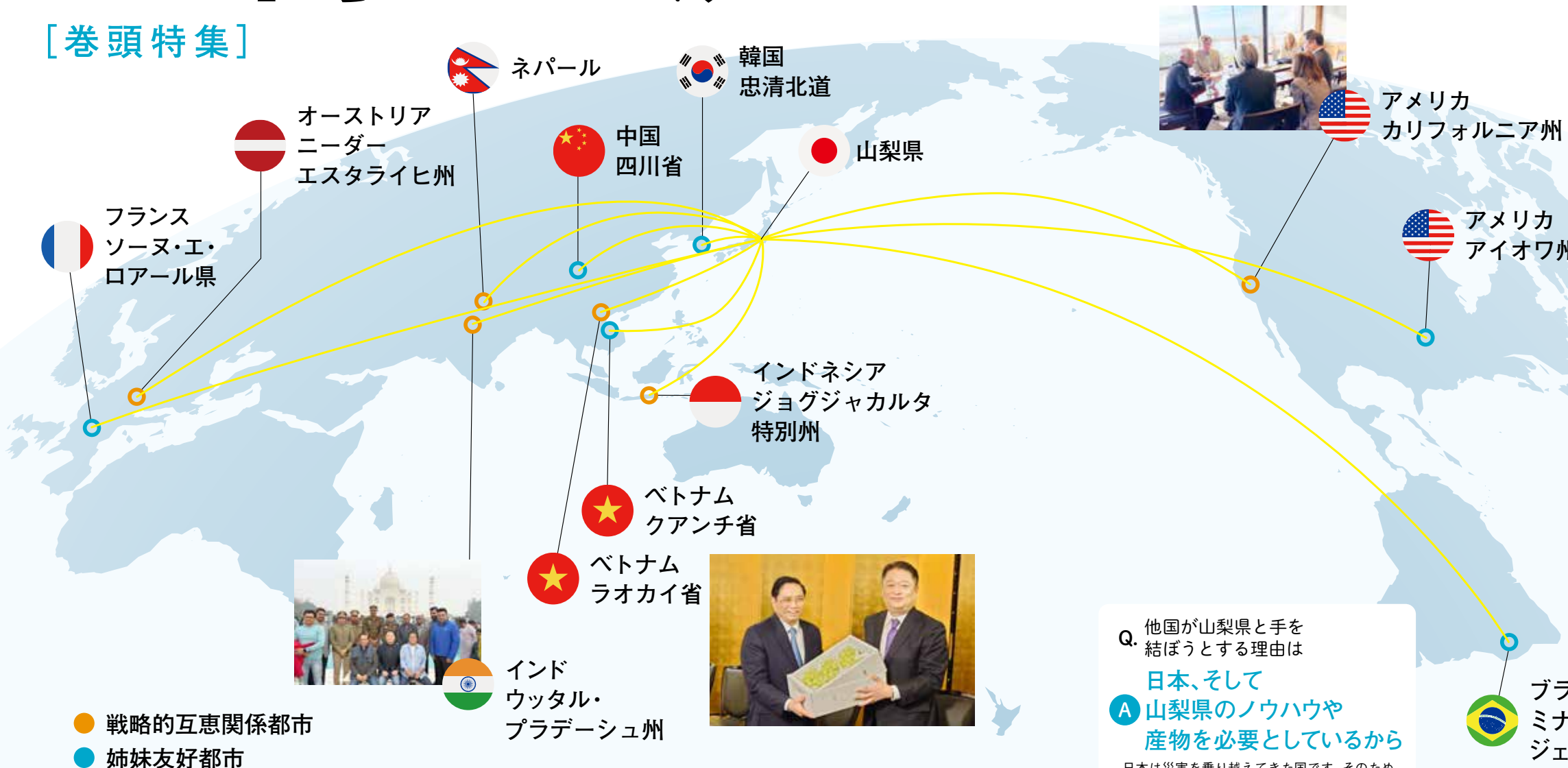
国際交流 2.0

国際交流2.0への発展

[巻頭特集]

山梨は新たなステージへ

山梨県が目指すのは、これからの時代にふさわしい、開かれた国際交流のかたち。山梨から世界へ、文化、経済、教育と、あらゆる分野で県民一人一人がつながりの担い手となる新しい国際交流のモデル「国際交流2.0」が動き始めています。



in California

アート×国際交流を通じて未来のリーダーを育てる

「自分をコントロールする力」「他者を理解する力」「他者と連携する力」。三つの「人間力」を持つ次世代リーダーを育成します。県は、高校生と専門学校生、大学生の計8人をアンバサダーに任命してカリフォルニア州に派遣。「学生アート交流カリフォルニア州派遣事業」が始まります。

アンバサダーは、2025年11月に渡米予定です。全4日の行程で、現地のギャラリーを視察したり、学生と交流を行ったりします。

メインイベントはCool Japan Center内に展示するアートを通じた現地アーティストとの交流です。「気候変動と持続可能性」「世界平和と協力」「人種とジェンダーの平等」といったテーマでコンセプトをつかった上で、作品を制作、現地でさまざまな交流を通じて次世代リーダーに必要な三つの力を養成していきます。

カリフォルニア州・ラグナビーチ市とは、2024年に文化交流などの促進に向けた協定を締結しています。10月にはカリフォルニアの自治体関係者などを招く「富士カリフォルニアリーダーズサミット」も開催予定です。サミットでは県産食材を活用し、双方の料理を融合させる新しい食文化を生み出し、食を通じた国際的なつながりを育みます。

Q. 他国が山梨県と手を結ぼうとする理由は

A. 日本、そして山梨県のノウハウや産物を必要としているから

日本は災害を乗り越えてきた国です。そのため、山梨にもインフラや防災関連など、多数の技術が蓄積されています。また、山梨県が誇る再生可能エネルギーを利用してつくられた「グリーン水素」を求める国も多く、県が持つ情報を提供することで他国の課題も解消できる可能性があります。

Q. 「国際交流2.0」はこれまでとどう違う？

A. 国際交流のバトンが行政から県民の皆さんに手渡されます

文化交流や友好・親善を目的として、特定の都市同士が結び付く姉妹都市間の交流は、これまで行政間で行われるのが中心でした。今後はこれまで培ってきた信頼関係を礎に、文化、経済、教育などの分野で民間同士の実益をもたらす交流へと発展させていきます。

山梨県のリソースを活用して国際的な課題の解決に貢献することで、世界における山梨県の価値向上を見据えています。

Q. なぜ国際交流が大切な？

A. 山梨県を取り巻く課題を解決するため

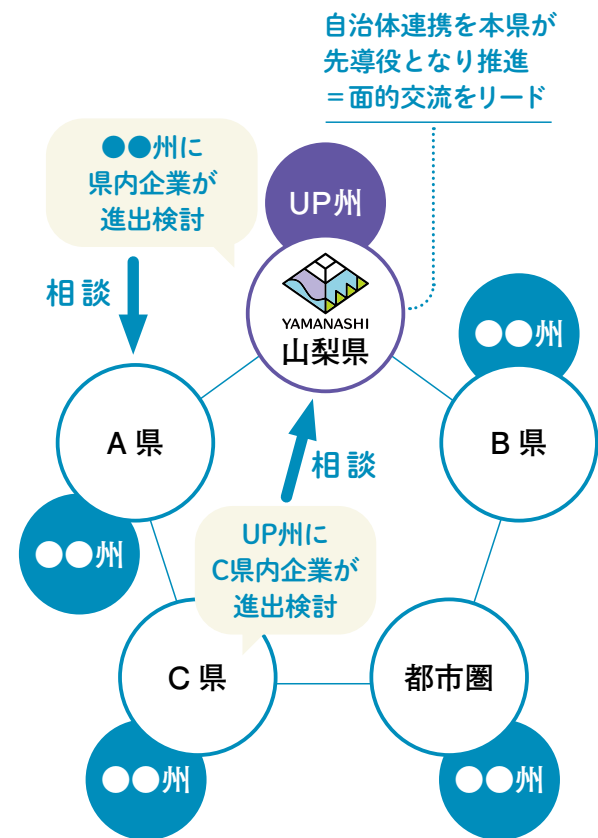
山梨県に限らず、現在、日本は少子高齢化の影響で国内市場の縮小や労働力不足が問題視されています。国際交流を進めることで、成長を続ける海外巨大マーケットへ進出できたり、県内で不足しているIT人材や介護人材を確保したりすることで、これらの懸念の解決に大きな力となります。

在、山梨県は世界各地の6都市と姉妹友好関係を締結しています。県ではさらに未来を見据えた取り組みとして、従来の姉妹都市関係の在り方を見直し、六つの「戦略的互惠関係都市」を加えた、新たな「国際交流2.0」へとバリエーションアップを図っています。

行政主導の交流にとどまっていた姉妹都市の関係が、県民一人一人が主役になる新たなステージへ進化を遂げようとしています。

かねてより、山梨県は「誰もが自由に選択し、挑戦できる社会」の実現を目標としてきました。文化や価値観の異なる人々と触れ合い、学び合う国際交流はその重要な柱の一つと考え、2025年現

山梨県が「面的交流」の
キープレイヤーに



この構想は、山梨県とインドの
一対一の関係ではなく、他県も巻
き込んだ「面的な交流」を行うもの
です。具体的には、山梨県がイン
ドと日本を結ぶ「扉IIゲートウェ
イ」となり、他県や首都圏など、日
本全国の自治体と連携しながら、よ
り広域で柔軟な国際ネットワーク
を形成するというビジョンです。例
として、他の自治体から「UP州
に進出したい団体・企業がある」「U
P州の人材に興味がある」と相談
を受けたとき、山梨県が橋渡し役
となり、UP州との多様なつなが
りを促進していきます。UP州側
から要請があったときも同様です。

この構想を推し進めるべく、山
梨県では今後さらに地方政府間協
力を強化していきます。年内には
UP州のヨギ・アディティヤナ
ト州首相が山梨県を訪れる予定で
す。この訪問を機に、人的・経済
的なつながりが一層深まり、イン
ドとの関係が新たな段階へ進むこ
とが期待されます。

最近では民間交流も活発化して
います。2025年8月には県内
企業の経営者を中心に山梨県イン
ド友好交流協会が設立され、シビ
・ジョージ駐日インド大使もイン
ド現地への進出や人材交流に期待
するとの祝辞を述べました。



Interview

「山梨のグリーン水素は
大きなステップ」
シビ・ジョージ駐日インド大使も
日印協力の強化に意欲

2025年8月、山梨県で開催され
た「インド経済セミナー」で、シビ・ジ
ョージ駐日インド大使が基調講演を
行いました。大使は講演後、ふれあい
編集部との単独インタビューに応じま
した。

Q 基調講演で、大使は日印が連携し
てグリーン水素の活用を促進して
いくために、UP州に「センター・オブ
・エクセレンス」(優秀な人材を集めた
イノベーション創出を目的とした組
織「CoE」)の立ち上げを進めてい
ると発表しました。どんな組織になる
のでしょうか。

A 具体化はこれからですが、実現す
れば、日本とインドが共同でCoEを
つくった最初の事例となります。

Q 山梨には、優れた農産物やワイン
を生み出す技術などがあります。今
後の人材交流を進めていくうえで、大
使は山梨のどんな技術に興味があり
ますか。

A やはり水素関連技術です。気候変
動に対処するのは喫緊の課題。その手
段として、グリーン水素は非常に大き
なステップになると思います。

Q 山梨県民の皆さんにメッセージを
お願いします。

A 実は、駐日インド大使に着任後、初
めて訪れた地が山梨県で縁を感じま
す。山梨県には新しいアイデア、ポテ
ンシャルが溢れています。今後、交流
をさらに深めて行きましょう。

急成長するインドの活力を山梨に
人口300倍のUP州と連携！

世界で最も人口が多く、急速に成長を続ける国、インド。
世界中の企業が熱い視線を送るこの国と、
山梨県は未来を見据えて連携を深めていきます。



- インドの特徴
- 世界最多の人口
 - GDP 急成長
 - 国全体の年齢が若い
 - 観光資源が豊富

若き超大国と山梨の未来がつながる

現在、インドは世界最多の人口
を誇り、近い将来にはGDPで世
界第3位になると予測されていま
す。年齢中央値は28歳と生産年齢
人口の割合が高く、中間所得層の
急拡大も見込まれているなど、ま
さに「若き超大国」といえます。

山梨県とインドの交流は202
4年12月、山梨県とウッタル・プ
ラデーシュ州(UP州)との間で
交わされた基本合意書から本格化
しました。UP州の人口は山梨県
の約300倍に相当する約2・4
億人に達します。農業や観光資源
が豊富で、世界遺産「タージ・マ
ハル」や、仏教、ヒンドゥー教の
聖地が点在する文化的にも深みの
ある地域です。世界遺産……。そ
うです、山梨県にも「富士山」があ
りますね。そこで、県はUP州と
相互に誘客を促して、新たな観光
客の獲得も狙っています。宗教聖
地を巡る観光プランの展開や文化
交流事業の実施などを通じて、県
内からインドを訪れる人の流れを

生み出すことにも取り組んでいて、
インバウンドとアウトバウンドの
双方の促進を図っています。

生産年齢人口の割合が高い一方
で、現在インドは十分な雇用の受
け皿が不足していることが課題で
す。そこで山梨県では、技能実習
生や高度人材を受け入れ、地域の
担い手不足解消にもつなげたいと
考えています。

その他にも、大学間の交流プロ
グラムの推進や、「ポリウッド」と
して名高いインド映画の県内への
ロケ地誘致も支援しています。

山梨県の課題だけでなく、イン
ドが抱えている問題についても積
極的に解消していくことには、理
由があります。協力関係を築くこ
とで、山梨県が将来、信頼できる
「窓口」として機能することを目指
しているからです。

このエネルギーで巨大な国
と山梨県が継続的に関わる鍵とな
るのが「インド版ゲートウェイ構
想」です。

家族も支える新制度

興味を示しました。交流をもう一歩先へ進めるのが、働く人々同士の結び付きです。現在、山梨県内には4千人を超えるベトナム人が在住しており、これは山梨県内の外国人労働者の約3割を占めます。

県内でベトナム人スタッフを雇用している企業からは「日本語の勉強に熱心で勤勉」「家族思い」といった好意的な意見が多く聞かれます。そんな彼らの就労を支える新たな制度「外国人労働者家族向け医療傷害保険制度」が2024年6月から始まりました。

この制度は、県内で働くベトナム人が、母国に残る家族の医療を支えるための民間保険サービス（提供・東京海上ベトナム）です。具体的には、ベトナム人従業員が支払った保険料（5〜59歳の家族の場合、1人当たり年額2万6千円程度）の4分の3以上



長崎知事らベトナム訪問団は、現地の果実店でも歓迎された

を企業が助成した場合、県がその2分の1に相当する額を雇用企業への支援として補助するものです。「制度のおかげで、離れていても家族を守る」と県内で働くベトナム人から喜びの声が届いています。

2024年1月には、「山梨県ベトナム親善交流協会」が発足。協会に約50の企業・団体が参加し、民間企業や団体のネットワークも広がっています。

「第2のふるさと」として山梨が選ばれ、その結果、地域経済の活性化と多文化共生社会の実現につながっていく——山梨が目指す「開の国」がここにあります。

Message

ファム・クアン・ヒエウ 駐日ベトナム大使からの メッセージ

私は、ベトナムと山梨県の関係が、「双方向」「多層的」「持続的」な協力の段階に進むことを期待しています。

「双方」は人と企業の往来による学び・経済交流・文化交流を指し、「多層的」は行政から住民まで幅広い交流を意味し、「持続的」は信頼と利益共有に基づく長期的発展を目指すことです。

現在、山梨県には約4600人のベトナム人が暮らしており、これは県内最大の外国人コミュニティであり、両国の友好の生きた架け橋です。私は、常にベトナム人コミュニティへの関心と支援を寄せてくださっている山梨県の行政と県民の皆様へ、心より感謝申し上げます。



フルーツや人的交流で 強まるベトナムとの結び付き

山梨県とベトナムとの関係が、大きく広がりつつあります。農産物を通じた絆、高校生との国際交流、外国人労働者とその家族への支援——。実りある交流の先に見えてくるのは、共に未来を築く関係です。



ベトナムの特徴

- 安定的な経済成長
- 豊富な若年労働者
- 50年以上の日本との外交関係
- 豊かな食文化



フルーツと高校生がつないだ友好関係

たわねに実ったシャインマスカットの房を手に、その甘さに頬を緩めたのは、遠くベトナムから山梨県を訪れたクアンチ省（旧クアンビン省）の訪問団です。

2023年、山梨県はベトナム中部に位置するクアンチ省と姉妹友好県省を締結。翌24年には北部のラオカイ省（旧イエンバイ省）とも国際交流覚書を交わし、現在は南部のタイニン省（旧ロンアン省）とも新たな関係構築が進行中です。北・中・南、それぞれの地域と結び付けば、今後ベトナムとの交流がより進んでいくことが期待できます。

こうした外交的な動きを支えるのは、「農産物」と「人」という山梨らしい二つの軸です。

2024年2月、山梨県内の高校生20人がクアンチ省を訪問し、現地のヴォーグエンザップ高校の生徒と交流しました。英語を介して互いの文化を紹介し合い、参加者の一人は「SNSを通じて、いまま連絡を取り合っている」と話します。



ベトナム向けにFacebookで県産フルーツの情報発信中

この訪問は、2023年5月に長崎幸太郎知事がベトナムを訪問した際の合意がきっかけで実現しました。このとき、現地では農業、人材交流、エネルギー分野での連携について協議されました。

同年9月には、クアンチ省の訪問団が甲州市のぶどう農園や、甲府市・米倉山の水素エネルギー研究施設「次世代エネルギーシステム研究開発ビルディング（通称・ネスラド）」を視察。クアンチ省は、カーボンニュートラル実現に向けた再生可能エネルギーの開発分野で風力発電に力を入れているため、余った電力の活用に向け、山梨県が誇るパワー・ツー・ガス（P2G）システム（詳細は8ページ）に強

水素社会の実現に向けて 山梨県から世界に発信！

各国で高まる山梨グリーン水素への関心


オーストリア
ニーダーエスタライヒ州

グリーン水素活用に係る覚書
締結 (2025年)


韓国
忠清北道

国際水素サミットへの参加意
向、技術者交流についての前
向きな検討 (2025年)


ベトナム
クアンチ省

省訪問団による複数回の
県内水素関連施設の視察
(2023年、2024年)


インド
ウッタル・
プラデーシュ州

首相秘書官、首相顧問等の県内
水素関連施設視察 (2025年)

2026.3
開催予定！

富士 ハイドロジェン・サミット 2026

山梨県のグリーン水素戦略と
多様な官民プロジェクト、世界的な広がり
幅広く周知することにより、グリーン水素分野で
国際社会をけん引


ブラジル
ミナスジェライス州

具体的な水素連携促進に
向けた新たな覚書締結合
意 (2025年)
グリーン水素活用に係る
覚書締結 (2023年)

山梨県の強み

1

やまなしモデル P2Gシステム

- 地域の再エネ電力でグリーン水素を製造
・貯蔵・活用する最先端の脱炭素技術
- 2021年から4年以上にわたりグリーン水
素を製造・供給

2

グリーン水素の 社会実装が進展

- 世界トップクラスの水素サプライチェーン
がサントリー白州工場を中心に誕生



米倉山でグリーン水素を製造するP2Gシステム

気候変動、エネルギー危機、大気汚染……。
いま、私たちの暮らしはさまざまな課題に直面しています。
その中で、脱炭素社会の切り札として注目を集めているのが水素。
山梨県は日本を代表する水素先進地として、
世界にも目を向けています。

世界が注目する
「やまなしモデル」

2018年から再生可能エネ
ルギーで水素を製造するパワー・ツ
ー・ガス(P2G)システムの開
発を始めた山梨県。21年6月には
このシステムで製造したグリーン
水素※1の本格的な供給を国内で
初めてスタートさせました。山梨
産水素は県内外のさまざまな場所
で活用されています。
山梨県のグリーン水素に対する
熱視線は海外からも向けられてい
ます。2024年から交流が始ま
ったインドは、大気汚染問題が深
刻化しているため、山梨県のP2

富士山の麓から 始まる未来

Gシステムに高い関心を寄せてい
ます。ベトナムも、山梨県の技術
者がクアンチ省を訪問し、意見交
換をしています。その他、ブラジ
ルのミナスジェライス州なども
グリーン水素を巡る連携促進に向
けて、活発なやりとりを続けてい
ます。
また、アメリカ・カリフォルニ
ア州では、クリーンな水素の製造
や利活用に取り組む団体「Ren
ewables 100」※2や、世
界最大のグリーン水素製造施設を
持つ企業「SGH2」※3との間で
協力関係の合意に至っており、世
界各地で「やまなしモデル」の展
開が期待されています。

山梨県は2022年、富士山の
麓に広がる富士五湖地域を、新た
な時代に求められる自然首都圏へ
と発展させる協働組織体「富士五
湖自然首都圏フォーラム」を立ち
上げました。同フォーラムでは「グ
リーン水素による持続可能な経済

の確立」「社会起業家との連携に
よる先進的な行政の確立」「若い
世代とアートによる活力のある社
会の実現」という三つの軸で、海
外の自治体・企業と国際プロジェ
クトを展開しています。

山梨県ではこの枠組みを単なる
地方創生にとどまらない、新たな
価値をつくる「社会実験をするフ
ォーラム」と定義して、さまざま
取り組みを行っています。「学生
アート交流カリフォルニア州派遣
事業」(3ページ)もその一例です。
2026年3月には、グリーン
水素社会の実現を一層加速するた
め「富士ハイドロジェン・サミッ
ト2026」(国際水素サミット)
の開催も予定しています。

国際水素サミットを開催するに
当たって、山梨県は大きく分けて
次の三つの目標を掲げています。
① グリーン水素エネルギーの利用
促進によってカーボンニュートラ
ルを実現する
② グリーン水素先進地である山梨
県が、水素の社会実装に向けて国
際的に議論する場を設けて水素革

命をリードする

③ 具体的かつ未来志向のテーマを
もとに、これまで以上に多様な国
との交流を図る

当日は、世界の水素戦略を担う
関係者が一堂に会し、最新の技術
や知見を共有するほか、各国が水
素社会の実現に向けて協働する
「共同宣言」の発出に向けて準備を
進めています。ブラジルからは「山
梨県のグリーン水素の活用事例
をぜひシェアしてほしい」といっ
た声も挙がっています。

県は、県民一人一人が主役にな
る「国際交流2.0」の新たな挑
戦を始めています。グローバルプ
レーヤーとしての「山梨県」の未
来に期待してください。

※1 再生可能エネルギーを使い、製造
過程でCO2を一切出さずに造られた
水素のこと。究極のクリーンエネルギ
ーといわれています。

※2 Renewables 100 アメリカで水
素エネルギーの普及を推進する官民合
同組織「ARCHES」(再生可能クリ
ーン水素エネルギーシステム連合)の中
核組織。2007年設立。

※3 SGH2 カリフォルニア州ランカ
スター市と連携し、年3,800トンのグ
リーン水素を製造。

やまなしの水素関連技術、国内で活用進む

来年3月をめどに国際水素サミットを開催する山梨県。足下の国内では、県が開発した水素関連技術が次々と活用されています。カーボンニュートラルのトップランナーとして、前進を続けています。

国内最大級のグリーン水素製造拠点

〔北〕 杜市にあるサントリー天然水 南アルプス白州工場。約82万㎡の広大な敷地の一角に、画期的な設備が誕生しようとしています*。

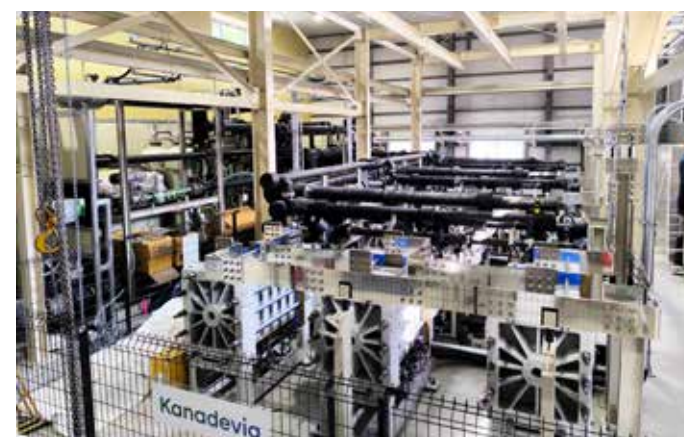
県が民間企業と共同で開発した「やまなしモデル P2G システム」は、再生可能エネルギー由来の電力で水素を作る装置です。サントリー工場隣接地に設置したこのシステムから、サントリーへ水素を供給します。稼働すれば国内最大級のグリーン水素製造拠点になります。

P2G システムで製造された水素は、配管により工場内に送られ、ボイラー燃料となります。ボイラーで熱せられた高温の蒸気がサントリー天然水の殺菌過程などの熱源として利用されます。

まだまだコスト面の課題が残る水素の製造。それでもサントリーが導入に踏み切ったのは、「グリーン水素」の環境価値があるからです。サントリーが掲げる企業活動の目的は、「人と自然と響きあい、豊かな生活文化を創造し、『人間の生命(いのち)の輝き』をめざす」こと。さまざまな環境保全活動に取り組んできたサントリーにとって、工場で CO₂削減につながるグリーン水素を使うことは大きな意義があるといえます。

* 新エネルギー・産業技術総合開発機構 (NEDO) の助成事業

組み立て中の水電解装置



グリーン水素の
環境価値に
期待大！

クリーン
エネルギーの
需要拡大を
見据えて



国内最大級の水素製造拠点の外観

米倉山で製造されているグリーン水素を運搬する現行の「カードル」。サントリーは新たなデザインのカードルを模索中だ。



〔サ〕 ントリーは、製造したグリーン水素を工場内で使うだけでなく、県内外にも供給する計画を立てています。

具体的には、ガス商社の株式会社巴商会（東京都大田区）と連動し、県内でのグリーン水素地産地消モデルの構築と、隣接する東京都への出荷計画を立てています。

その実験の過程で目指すのは、水素の「荷物化」。

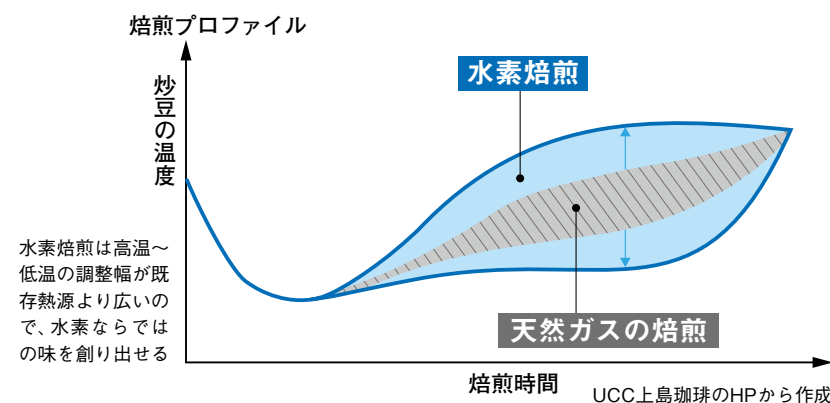
通常、水素は専用のトレーラーで運ばれます。決まった場所に決まった量を輸送するには適しているものの、交通上の規制もあり必要な時にすぐに届けるのは難しいという課題がありました。

そこで、水素の需要拡大を見据えてサントリーと巴商会が開発中なのが、新しい高圧水素ガス運搬機器です。長さ3メートルほどで円柱状のガス専用容器を数本まとめて「カードル」と呼ばれる集合容器に固定。荷下ろし作業の効率を上げて、水素を「荷物」として白州から各地に送り出す計画です。

甲府市の米倉山からグリーン水素を出荷する際も「カードル」を使っていますが、開発中のものは、より高圧力で運べるため、一度の運搬でたくさんの水素を供給できます。「カードル」は多くの方に親しまれるデザインを模索しているそうです。おしゃれなデザインの容器で水素が運ばれていく様子がえられる日も遠くないでしょう。

水素を「荷物化」して各地へ供給

山梨県産水素を コーヒー製造に 活用！



UCCの水素焙煎コーヒーを防災新館1階のまろごとやまなし館で提供中



UCC富士工場内にある大型水素焙煎機（UCC上島珈琲提供）

UCC上島珈琲株式会社（兵庫県神戸市）は、水素を熱源とする大型焙煎機をレギュラーコーヒー製造の主力工場「UCC 富士工場（静岡県富士市）」に導入しました。使われているグリーン水素は、県の米倉山電力貯蔵技術研究サイトにあるP2G システムで製造されています。UCCが指針とする「2040年までにカーボンニュートラルの実現」に向けた取り組みの一つだそうです。

コーヒーの焙煎プロセスの熱源には一般的に天然ガスが使用されていますが、UCCは燃焼時に二酸化炭素を排出しない水素を熱源とする焙煎機と水素バーナーの開発・実装を進めてきました。水素だと温度の幅が広がり、味に独自の特徴があるそうです。UCCでは従来の熱源との味覚差も研究中です。



県産水素で焙煎したUCCコーヒーのラインナップ（UCC上島珈琲提供）

こうして作る！ やまなし水素社会実現戦略

③ 戦略素案とロードマップ

調査分析に基づいて戦略の素案を作成します。来るべき水素社会の姿を具体的に表し、県民生活におけるさまざまな利活用のあり方も見据えて2050年までのロードマップを作成します。

② 水素・燃料電池関連産業の市場見通しは？

水素・燃料電池に関連する製品・サービス別の最新の市場動向・将来見通しを調べて分析します。県は「やまなしモデルP2G」の海外展開にも積極的に取り組んでいるので、国外市場も調査の対象です。

製品・サービスの例

- モビリティ（乗用車、トラック、フォークリフト等）、定置用燃料電池、水素ボイラ、水素バーナー、水電解装置など
- 製品の量産に係る製造装置、分析装置、検査装置など
- 水素インフラにかかわる土木・建築・配管工事、メンテナンスなど

① まずは状況調査

県内企業の水素・燃料電池関連分野における事業の状況（売上、雇用者数等）、燃料電池、水素ボイラ、FCV等の導入計画などに関するアンケートやヒアリングを実施する予定です。

暮らしの中に
水素が広がる
ロードマップ！

県の水素キャラクター
「水素のスイチョ」
©YAMANASHI/nakanogumi



「水素社会」年表

- 2018.3**
「やまなし水素エネルギー社会実現ロードマップ」を策定
- 2020.10**
国が「2050年カーボンニュートラル宣言」
- 2023.3**
「山梨県地球温暖化対策実行計画」を改定
- 2023.5**
GX 推進法が成立
- 2024.5**
水素社会推進法が成立
- 2025**
山梨県が「やまなし水素社会実現戦略」の策定に着手

県が来年開催する国際水素サミットの大きな狙いは、水素を巡る国際的なルールメイキングをすることです。県は、「世界基準」で水素関連施策を推進していきます。そうしたゴールを設定し、「水素社会実現戦略」の策定に着手しました。

戦略の策定に当たって、大切なのは基礎的な調査です。県内企業が水素関連の分野にどのような興味を示しているか、参入の見通しはどうかなどを探ります。甲府市の米倉山にある「次世代エネルギーシステム研究開発ビレッジ（通称・ネスラド）」には水素・燃料電池関連の企業が集積していますが、この裾野を広げていくための知見を調査・分析によって蓄積します。

さらに、P2G システムを国内外に展開していくための課題や可能性も調べていきます。先進的な水素の活用事例を集めて、そこにP2Gを展開する余地があるのかも見極めていきます。今年度中に調査を終えて、有識者らの意見を聞きながら、最終的に「戦略」を取りまとめる予定です。

あるべき「水素社会」とは？
国際的なルール作りへ

「誰も取り残さない」支援策展開中！

学びを保証、 安心して過ごせる 空間を

子どもの数が減り続けているにもかかわらず、不登校児童生徒の数は増加の一途です。県は「誰ひとり取り残さない」ことを目指して全ての子どもたちに学びを保証します。そのために、さまざまな支援策を展開しています。



新たに始まった 主要支援策



フリースクール 利用助成事業で 経済的負担を軽減

令和5年度、山梨県内の不登校児童生徒数は小学校788人、中学校1401人、高等学校138人の計2327人にのぼりました。不登校の原因はさまざまですが、児童生徒に学習機会を提供することを揺るがせにできません。

今年度から、県として初めてフリースクール利用への助成事業を開始しました。この制度は、生活困窮家庭（就学援助や生活保護受給世帯）のフリースクール利用料を県と市町村が補助するものです。



県の補助上限は1人当たり月額1万5000円で、市町村の補助が上乗せされるので保護者の経済的負担を大幅に軽減できます。この事業には、不登校によって保護者が仕事を辞めたり転職したりせざるを得なくなることをできるだけ防ぐ側面もあります。また、子どもたちがこの機関ともつながりを持っていないまま家にいることがないようにして、義務教育段階で何らかの学びの場とのつながりを維持します。

スクールソーシャルワーカーを 大幅に増員

スクールソーシャルワーカー（SSW）は、家庭と医療機関や福祉機関をつなぐ重要な役割を果たします。県内には現在、15人のSSWが配置されていますが、県は大幅な増員を進めます。配置のねらいは何でしょうか。



つています。こうした学校だけでは解決が困難なケースは増えるばかりです。SSWの増員によって学校の負担が軽くなれば、先生たちはきめ細かな指導に専念することができま

早期発見・早期対応 の取り組み

各学校では、子どもたちからSOSを出せるような教育を徹底するとともに、教職員がそのSOSに気づき丁寧に対応できるように取り組んでいます。

県内の多くの学校では、1人1台端末を活用した心の健康観察アプリを導入。これは、朝の時間に「今日はこんな気分」「先生に相談したいことがある」といったことをボタン1つで表現できるシステムで、見逃しがな

新たな学びの場創出へ

ICTを活用した学習支援も検討中

県では、フリースクールなどでICT（情報通信技術）を活用した課題解決型学習を試行的に実施する調査事業も行います。プログラミング学習などを通じ



多様な学びの選択肢を用意し、一人一人の子どもが自分らしく成長できる環境づくりを、県全体で進めています。

お気軽に ご相談ください

不登校などで悩んだ際の相談窓口は、表のとおりです。

やまなし子供SOSダイヤル
24時間子供SOSダイヤル

0120-0-78310

24時間365日・無料・匿名相談

いじめや不登校、家庭の悩み、ヤングアダルトの悩み、あなたの悩み、一緒に考えます

不登校は決して恥ずかしいことではありません。家庭内で抱え込んで悩むのではなく、気軽に相談してみてください。

主な相談窓口

- ・子供の発達相談ダイヤル 055-267-8235（月～土 9時～17時）
- ・こころの相談相談ダイヤル 0570-064-556（月～土 9時～18時）
- ・山梨いのちの相談 055-221-4343（月～土 9時～18時）
- ・ヤングテレフォン 0120-311-7867（月～土 10時～17時）
- ・山梨県少年相談ダイヤル 0120-189-7831（24時間）
- ・チャイルドライン 0120-99-7777（24時間）
- ・よりよいネットライン 0120-279-338（24時間）



一般社団法人ソーシャルテンブル代表で妙福寺僧侶の近藤玄純さん。日頃から子ども食堂の運営などを通して子どもたちとコミュニケーションをとっています。



「こんなデザインがいいんじゃない？」とAIアプリでつくったロゴを見ながら話し合う学生たち。その様子を近藤さんはそっと見守っていました。



「山梨」「友だち」などキーワードを入力すると一瞬でイラストのロゴを生成してくれるAIアプリを活用。



みんなで「どんな居場所にしたいか」を考えるワークショップ。学生たちは思い浮かんだアイデアを付箋に書いていきます。



中高生の居場所 「放課後cafélab」がオープン

中高生にとって放課後に安心して過ごせる場所は多くありません。ゲームセンターやカラオケは楽しいけれどお金がかかる——。かといって、一人で家に帰るのも寂しい——。そんな声に、県はモデル事業として、「放課後cafélab（カフェラボ）」を昭和町にオープンしました。多くの仲間と交流できる「居場所」です。

クします」と話していました。

「放課後カフェラボ」は、イオンモール甲府昭和と、JR身延線・常永駅から徒歩5分の「妙福寺」の2カ所で開かれます。学習や交流ができるスペース、Wi-Fi設備、スマートフォンによる動画撮影コーナーが設置され、県内在住の中高生は無料で利用することができます。

中高生自身が運営や企画に関わり、子ども自身がどんな場所にしたいかを考えながら利用の仕方やルールをつくります。

子ども食堂「寺GO飯」などを運営する一般社団法人「ソーシャルテンブル」が運営を担い、さまざまなコミュニティづくりをする「ブリコールズ合同会社」が企画・教育設計面について子どもをサポートしていきます。

ソーシャルテンブル代表で妙福寺僧侶の近藤玄純さんは「全国的に子どもの居場所をつくる政策はありますが、そこに『学び』を

2023年6月、県では子どもと若者を対象にアンケート調査を実施しました。中高生が落ち着いて過ごせる場所について、「図書館など、地域の施設」と回答した中学生は7%、高校生は3%と非常に低い数字でした。これを踏まえ、**地域社会の中に中高生の居場所を増やそうと、県は「放課後**

カフェラボ」を開設しました。

7月にイオンモール甲府昭和で開かれたキックオフイベントには、県内在住の高校生8人が集まりました。

東京のAI企業「STANDARD」の岡田光了さんが講師となり、AIの使い方を教え、「みんなで、『放課後カフェラボ』のロゴをつくろう」と提案。高校生8人は三つのグループに分かれ、それぞれが「居心地の良い場所のキーワード」を付箋に書いていきました。「漫画があつたらいい」「ゲームがある場所」「勉強ができる場所」……。書き出されたキーワードをAアプリに入れて、イラストのロゴをつくりました。

参加した高校1年の男子生徒は「友だちと集まれる場所がないので、いまは学校が終わると家に帰るしかない。みんながふらっと寄れる『家のようにくつろげる場所』にしたい」。友だちに誘われて参加したという高校3年の女子生徒は「普段は話す機会がない他校の人たちとも話せる。居場所をみんなで作れるなんてワクワク

※開催場所と日時は
県のホームページから
確認できます



「放課後カフェラボ」はモデル事業です。2カ所の運営で得た知見や成果を、県内の市町村に共有し、県は今後、県全域で、中高生が安心して過ごせる居場所づくりを、広めていく考えです。

付与するのは珍しい試みです。単なる遊び場ではなく、子どもたちの成長につながる「中高生のためのキッズニア」のような体験ができる場所を目指したい」と話しています。

「放課後カフェラボ」には、運営を支援する団体や、大学生ボランティアが常駐します。近藤さんは「中高生が年上の人とフラットに意見交換ができることも『放課後カフェラボ』だからこそ。家庭や学校では話にくい思春期の悩みを気軽に相談してほしいですね」と話しています。



ワークショップの最後に、それぞれのチームがつくった「放課後カフェラボ」のロゴを発表しました。



ワークショップの講師を務めた株式会社STANDARDの岡田光了さん(写真中央)はAI活用支援の専門家として全国で研修を実施。学生たちにAIの使い方をわかりやすく説明していました。



ブリコールズ合同会社の代表を務める石田奈津子さん。放課後カフェラボの企画などに携わっています。



初めて会った人ともワークショップの作業をしながら自然と会話がはずみます。

未来を
懸命に志す
県民インタビュー

「連載」

山梨県人

幸せをもらって 生きている

毎月第3金曜日の夕方、南アルプス市にある桃の丘団地コミュニティセンターに地域の子どもやお年寄りたちが集まって、みんなでご飯を食べる。メニューは、カレーとサラダとデザート。大人3人が入るといっぱいになる施設のキッチンで、毎回80〜100食を用意している。スタッフは開催日の1週間前から複数のスーパ―をまわって材料を集めたり、当日の朝から下ごしらえをしたりと忙しい。さぞ大変なのでは……。そう聞くと、



活動の記録写真は夫の
慎二さんが撮影している

「子ども食堂えびね」代表の鈴木圭子さん（68）は首を横に振った。「子どもたちが『今日のデザートは何かかな？』と小学校で話題にするほど楽しみにしてくれているので、うれしいんです」
鈴木さんが夫の病气や親の介護で困った時にそっと助けてくれ

る人たちがいた。だから自分もそういう人を見かけたときは放っておけない。
ある日、子ども食堂に80代の男性がふらっと入ってきた。「カレーのいい匂いにつられて……」。男性は認知症で、家ではレトルトカレーを食べていると話した。後日、その男性が福祉施設に入所する前にえびねに招待し、笑顔でカレーを食べることができた。

近所のお年寄りが住む家の前を通る時も、声掛けをして様子を気にかける。大きな困り事が起きる前に、自治体や病院につなげたいと考えるからだ。

またある日のこと、鈴木さんが朝の通学路で子どもの見守りをしていると、一人の小学生がフラフラと歩いてくるのを見かけた。事情を聞けば「朝ごはんを食べていない」と言う。服装が1週間変わっていないにも気付いた。それから毎朝、鈴木さんはその子のためにおにぎりを握った。

休日は子どもを集めて、エコバ伊奈ヶ湖や美術館に連れて行くこともある。子ども食堂でも、防災学習やコンサートなどのイベントを開催している。さまざまな家庭の事情を抱えた子どもを間近で見えた鈴木さんは、「みんなに楽しい経験をしてもらいたい。自分の環境が恵まれていないことに気付かない子どもたちもいるから……」と静かに語る。

始めからボランティア活動に興味があったわけではない。ごく普通の専業主婦だったが、幼少期の食生活や経験の大切さを伝えた



「子ども食堂えびね」代表の鈴木圭子さん（68）は首を横に振った。

山梨県内には59カ所*

の子ども食堂があり、県は「食」を通じて地域住民が交流できる場を支援している。困難な状況にある子どもや高齢者、外国人、シングルマザーなどが地域住民と信頼関係を築き、相談できる環境が必要だから。県は市町村と連携し、子ども食堂のようなコミュニティの場を全県に広めることで、悩みを抱える人をいち早く支援につなげることにしている。
※2025年7月22日時点

鈴木さんは8年間、登下校する子どもの見守りを続けている

一緒に食べて、 地域とつながる

南アルプス市で
子ども食堂を運営する

鈴木圭子

その女性が自宅の庭に植えた山野草の「海老根（エビネ）」は、年に一度、可憐な花を咲かせる。自身が主宰する「子ども食堂えびね」に集う子どもたちに、「エビネは季節の小さな草花と一緒に咲くからキレイなんだよ」「大自然に生かされている人間も同じ。それぞれの個性を認め合って生きていこうね」そう語りかけている。
おいしいご飯を提供するだけじゃない。誰かが困っている時に手を差し伸べる。その小さな積み重ねが、地域社会のつながりを広げている。

HISTORY

1997
甲府市生まれ。学校卒業後は山梨中央銀行に勤務

1997
慎二さんと結婚

2019
民生委員の主任児童委員に任命される

2023
子ども食堂えびねを立ち上げる



「おいしかった」「また食べたい」と
子どもからのメッセージ

おせっかいと 言われても

くて、子どもの問題に関わる講習会やセミナーに通った。2019年に子どもの居場所をつくる「桃の丘子どもを見守る会」を設立。それが現在の「子ども食堂えびね」につながっている。
「この活動ができるのは、支えてくれる家族やスタッフの仲間たちがいるからこそ。『えびねのためなら』と野菜を提供してくれる農家の方や、イベントに協力してくれる方もいます。本当に感謝しかありません。私は周りから幸せをもらって生きていると思います」

誰かが困っていたら手を差し伸べたい。そう思っている相手には伝わらないときもある。おせっかいだと言われて心が折れそうになることもある。でも、そんな時に心の支えにしている言葉がある。「涙また涼しよ生きて ありにけり」

ハンセン病と闘った俳人・村越化石の句だ。深い悲しみにとられず、自分の人生を生きていく。この句のおかげで、鈴木さんは「何

かが吹っ切れた」と話す。「いつか理解してもらえると信じて、悲しいことは言いません」
さまざまな状況にある人々が、同じ食卓を囲むことで地域社会のつながりを育む……。その理念に共感した長崎知事が、今年6月の県議会であびねの活動について触れたことも励みになった。

昨年は入院も経験した。体力がもたないのではと弱気になった。でも仲間たちに励まされて活動を続ける。「私は人の役に立つ高齢者になりたいんです」。自分にできることはまだあるはずだから。

表紙のヒトたち。



四川省と交流40周年 生徒たちが山梨を満喫

笛吹市にあるフルーツ農園で記念撮影をしているのは、中国・四川省から来た青少年交流訪問団の中学生10人です。山梨県と四川省とは姉妹友好県省を締結して40周年になります。一行は、山梨のフルーツを堪能した後、甲陵高校（北杜市）を訪れて茶道などの日本文化を通じて交流を深めました。



やまなしの魅力は もっともっとあるはず！

「ふれあいスクエア」では、県民の皆さんからの写真を募集しています。次号 vol.87 (冬号) では、皆さんの「お正月」写真を募集します。自慢のおせち料理や、初詣の場所など。撮影したときのエピソードを添えて、ぜひ教えてください。また、県の取り組みについてのご質問もお待ちしております。

こちらから
どうぞ！



山梨県公式
LINE アカウント

友だち登録すると
写真を投稿できます。



釣心

釣れるかな？

早川町湯島の溪流で初めてのルアーフィッシングを体験しました。今回は釣れなかったけど、自然の中に溶け込める楽しい1日でした。



応援団A

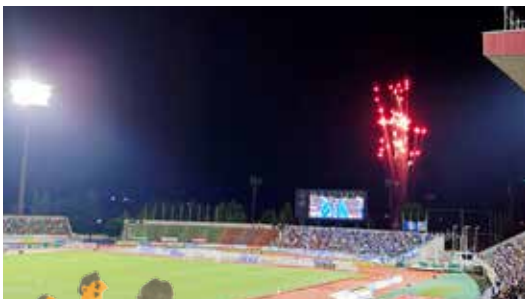


笛吹市のソウルフード

笛吹市にある「古今亭」で「ラーほー」を食べました。醤油ベースのスープで麺はもちもち。他のお店でもラーほーも食べてみたい！



コーヒーちゃん



目指せJ1

甲府市にあるJ1リサイクルインクスタジアムで地元サッカー клуб「ヴァンフォーレ甲府」の試合があり、多くの観客の前で花火が打ち上げられました。J1昇格に向けて、後半戦も頑張れ！



tanaket

山梨ワインが大集合

甲府駅北口よっちゃばれ広場で開催された山梨ワインの飲み比べイベント「蔵出しワインバー」に参加。昼間からおいしいワインが飲めて、にんまり笑顔でした。



カベルネ

これぞ 日本の原風景

田植えが終わった中野の棚田（南アルプス市）と富士山を撮影した1枚です。澄んだ空にとっても穏やかな気持ちになりました。



ふれあい スクエア



PHOTO SPACE

あなたが撮った写真を「ふれあい」に掲載しませんか？皆さんのとおきのおきの1枚、お待ちしております！



85歳が大活躍

甲府市の東側では7月上旬頃から露地栽培のデラウェアが出荷されます。85歳の母は我が家の主戦力。普段は杖をついて歩くのに、畑の中では重い籠も平気で持てるのが不思議です。



あんぽんゆづ

Q & A SPACE

皆さんから寄せられた県政に関する疑問・質問にお答えするこのコーナー。今号の質問は、こちらです。



スポーツ振興課 主任

齋藤 博道

Q 今年オープンした
やまなしパラスポーツ
センターは
どんな施設ですか？
パラスポーツが楽しめる、
障害者に使いやすい工夫を
凝らした冷暖房完備の施設です。
健常者も利用できます。

Q 工夫を凝らしたのは
どんな点ですか。

バリアフリーのトイレや更衣室、車いすのまま入れるシャワールームも完備しています。視覚障害者のための音声案内や点字ブロック、聴覚障害者のための非常用フラッシュライトなどを設置しているので安心して過ごせます。



誰もが使いやすい広くて機能的なトイレ

Q どんなスポーツが
楽しめますか

車いすバスケットボールや、サウンドテーブルテニスなどのパラスポーツの他に、バレーボールやバドミントン、卓球などのスポーツができます。障害の有無に関わらず参加できるパラスポーツ体験会などのイベントも定期的に開催し、共生社会の実現を目指します。

Q 一人でも
利用できますか

もちろんです。センター内には専門知識がある「パラスポーツ指導員」が常駐しているのので、サポートが必要な時は声をかけてください。スタッフがバドミントンなどの対戦相手にもなりますよ。



あらゆる競技に対応した多目的体育館

センターの
情報はこちら



01

高付加価値

国内初
ブドウの選果機実証開始
品質の安定を目指す

国 内初となる光センサーと人工知能（AI）を組み合わせたブドウ選果機の実証機が完成しました。これにともない、県と JA 全農やまなしなどをメンバーとした「ぶどう房選果実証運用コンソーシアム」は7月15日、選果機を設置した JA フルーツ山梨日川共選所（山梨市）で、関係者を集めてセレモニーを開きました。

現在、農家が出荷した箱ごとに等級を決めているため、同じ箱に詰められたブドウの中でも品質にばらつきが生じることがあります。選果機は、房ごとに光センサーで糖度を測定し、AI が果粒の大きさや着色、房の形状などを解析して選別します。実用化すれば、安定した品質のブドウを市場などへ流通させることができます。

実証では各 JA からブドウを持ち寄り、光センサーで糖度を測定し精度を高めるとともに、AI に学習させます。当面は輸出用を中心にモデル的に取り組み、4～5年先の実用化を目指します。

県は、他のブドウ産地との差別化や競争力を高め、生産者の所得向上につなげていきます。



お披露目されたブドウの選果機

02

魅力発信

インフルエンサーら
山梨の魅力を再発見
交流会開催

山 梨県は8月20日、赤坂プリンスクラシックハウス（東京都千代田区）で、県にゆかりのあるインフルエンサーや企業・団体関係者などを招いた交流イベント「#やまなしミートアップ」を開催しました。

多くの人の考え方や行動に多大な影響力を持つインフルエンサーなどを通じて県の魅力を発信するため、最新情報を紹介するブースを設置したほか、県産の食材を使用した料理やお酒を提供しました。

会場では、約100人の参加者に日本酒やワインのほか、オリジナル品種のブドウ「サンシャインレッド」や奨励品種の米「にじのきらめき」、ブランド牛肉「甲州牛」やオリジナルのブランド魚「富士の介」を使った料理などを堪能してもらいました。

県が推進する「富士トラム」や「やまなしモデルP2G システム」の紹介、郡内織物を使った夏服「かいくーる」も展示しました。長崎知事は「山梨の魅力を再認識していただいて、さらに山梨を好きになってもらい、その魅力を発信していただきたい」と呼び掛けました。



交流会で談笑する参加者



山梨を拠点に活動する村上しずかさんが考案したオリジナルのフルーツカッティングも実演された

03

防災対策

火山防災対策強化へ
23都道県が一致団結



総会で発言をする長崎知事

山 梨県が火山災害警戒地域に指定されている23都道県に呼びかけて結成した、火山防災強化推進都道県連盟（連盟代表幹事・山梨県）は7月23日、全国知事会に合わせて青森県で今年度の総会を開催しました。

総会では、国に対して火山の噴火予測・前兆現象などの監視・観測体制の強化や火山専門人材の育成・確保に関する支援、大規模降灰対策の具体的な検討などを求めていることを確認しました。また、本県の富士山科学研究所・藤井敏嗣所長が大規模噴火に伴う降灰対策について説明しました。

総会で長崎知事は「火山防災対策は、ようやくスタートラインに立った段階。これからも23都道県が一致団結して、国と役割分担をしながら、強力に取り組みを進めていく」とコメントしました。

戸籍の ふりがな届出 便乗した詐欺に注意



改正戸籍法施行により、戸籍に氏名のふりがなを記載する新しい制度が始まりました。本籍地の市区町村から戸籍に記載される予定のふりがなが通知されます。ふりがなが誤っている場合は届出が必要になりますが、届出にあたって金銭を支払うよう要求されることはありませんので注意しましょう。

- 届出に手数料はかかりません。
- 届出をしなくても罰則や罰金はありません。
届出をしない場合は通知された氏名のふりがなが戸籍にそのまま記載されます。

困ったら下記にご相談ください。

山梨県県民生活センター

☎ 055-223-1523

消費者ホットライン

☎ 188（いやや）※全国共通

（最寄りの市町村や県の消費生活相談窓口をご案内します）



県民生活センターでは、ホームページなどで消費者トラブルを未然に防ぐための情報を発信しています。

ここから下の段は広告です。広告の内容については、広告主にお問い合わせください。



商品提供：河口湖おおさわ園

河口湖富士恵味
とうもろこしの
炊き込みご飯の素
2セットふれあいは
英語と中国語でも
読めます。FUREAI is also available in
English and Chinese.
FUREAI 还有英文和中文版。

県政情報発信中

山梨県
広報番組山梨県が
良すぎるやまなし
in depth
やまなし
in depthHIGH
QUALITY
YAMANASHI
ハイクオリティ
やまなし山梨県
公式LINE

ここから下の段は広告です。広告の内容については、広告主にお問い合わせください。

読者プレゼント

抽選で
5名アンケートに
答えて応募しよう!次の①～⑤とアンケートにご回答ください。
応募は「はがき」または「応募フォーム」でお願いします。

①郵便番号 ②住所 ③氏名 ④年齢 ⑤電話番号

※応募は1人1回限り。

アンケート

問1: 今号の中で最も関心を持った内容とその理由は?

問2: 外国人におススメしたい山梨の推しスポットや
モノを教えてください

※いただいたご意見の一部を紹介させていただくことがあります。

応募先

山梨県広聴広報グループ
「ふれあい読者プレゼント」係
〒400-8501 甲府市丸の内1-6-1

応募フォームはこちら

<https://forms.office.com/r/1wUNAC9KZQ>締め切り **10月31日(金)** 当日消印
有効商品の発送をもって、当選発表に代えさせていただきます。
個人情報は商品の発送のほか、県からのお知らせなどのために、
使用させていただくことがあります。「おいしい未来へ やまなし」については、
県ホームページをご覧ください。

おいしい未来へ やまなし

検索